

授業科目名	臨床薬理学Ⅱ(応用)	担当教員	◎安室修、清田憲吾、 中川雄介
必修	開講年次：3年前期	単位：1単位	授業形態：演習 30時間

【授業概要】

この科目は、薬物が人間に及ぼす効果や副作用などの現象を理解し、臨地において看護師の薬物治療のモニタリングや副作用の問題などについて事例(症例)を通して分析し、経験として学生の実践能力に結び付けてゆくことを目指す。

【授業目的・目標】

1. 学生が経験した、または現在経験している事例を病群ごとに一つ掲げ、看護診断名と看護過程をみる。
2. 事例に関する薬物の後発医薬品名と市販名を掲げ、その意義や副作用の可能性について説明できる。
3. 症例を用いて看護課程の中で、看護師の薬物のモニタリングの役割について説明できる。
4. 症例を通して、薬物治療に関連した問題点の抽出し、その解決方法についてスモールグループで討議する。

【履修条件】

「臨床薬理学Ⅰ(基礎)」を修得していること

【授業計画】

- | | |
|--|------|
| [01] 薬物の持つ特性(薬物動態を応用した有効性と安全) | (安室) |
| [02] 小児・妊婦・授乳婦の薬物治療に対する看護ケアについて(症例・SGD) | (清田) |
| [03] 自律神経作用薬使用時の看護ケアについて(症例・SGD) | (安室) |
| [04] 中枢神経作用薬使用時の看護ケアについて(症例・SGD) | (清田) |
| [05] 高血圧薬治療薬使用時の看護ケアについて(症例・SGD) | (中川) |
| [06] 心不全治療薬・不整脈治療薬使用時の看護ケアについて(症例・SGD) | (安室) |
| [07] 血液・造血系作用薬使用時の看護ケアについて(症例・SGD) | (清田) |
| [08] 抗炎症薬・抗リウマチ薬使用時の看護ケアについて(症例・SGD) | (中川) |
| [09] 呼吸器系作用薬使用時の看護ケアについて(症例・SGD) | (安室) |
| [10] 消化器系疾患治療薬使用時の看護ケアについて(症例・SGD) | (清田) |
| [11] ホルモン系作用薬使用時の看護ケアについて(症例・SGD) | (中川) |
| [12] 感染予防・感染症治療薬に対する看護ケアについて(症例・SGD) | (安室) |
| [13] がん化学療法に対する看護ケアについて(症例・SGD) | (安室) |
| [14] がん緩和医療―痛みからの解放―に対する看護ケアについて(症例・SGD) | (安室) |
| [15] 救命救急・中毒時に使用する薬の看護ケアについて(症例・SGD) | (清田) |

【教科書】

安原一、小口勝司編(2009)：わかりやすい薬理学(第二版)、ヌーヴェルヒロカワ

【参考書】

ナーシング・グラフィカ臨床薬理学 古川裕之4、メディカ出版

【評価方法・評価基準】

テスト：100%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：疾患について代表的な臨床症状や臨床検査値異常などについて予習しておくことが望ましい。

事後学習：各章の最後にまとめられている「看護上の留意点」、「学習課題」、「キーワード」を中心に振り返りを行うことが望ましい。特に「学習課題」に関しては、「キーワード」を含めてまとめると効果的な事後学習が可能になる。また、教科書中の図表を利用して視覚的に薬理作用を理解するとよい。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実施能力、Ⅳ. テクノロジーを効果的に活用する能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

模範解答の提示

【備考】